

「ネットでeクラス」視聴感想シートの集計結果(2011)

小児がん学習コミュニティ「ネットでeクラス」の支援内容を4分間で解説した動画を含めた、下のようなDVD200枚を作成しました。



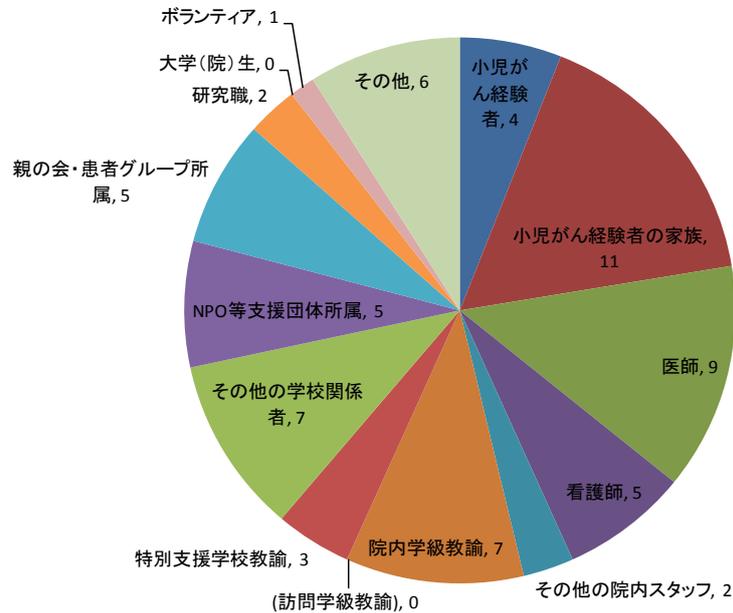
このDVDに「視聴感想シート」を同封して送付した結果、58件のご回答をいただきました。

■まとめ

- ・ 事業の活動は肯定的なコメントが多く、58人中54人の方（93%）が活動を**意義深い**と評価しました。
さらに、**利用を薦める意向**を示した人は45人（77.6%）に達しました。
- ・ 意味のある利用状況として、①**院内学級のない病院**、②**入院中の高校生**（院内高校はほとんどないため）③**訪問学級の補完**（理科・社会）④**一時帰宅や退院後の自宅療養時**の利用などの他に、「無菌室での利用」などの状況が示唆されました。
- ・ **ホームルームに対する評価はたいへん高く**、学習支援だけでなくコミュニティ構築の機能も十分に認知され評価されたと言えます。

■ アンケート回答者の属性

アンケート回答者の内訳は、以下のグラフのような構成となっています。



【当事者】小児がん経験者 4 人、小児がん経験者の家族 11 人で合わせて 15 人、全体の 25.9%でした。

【医療関係者】医師 9 人で看護師 5 人、その他の院内スタッフ 2 人（ソーシャルワーカー、心理士）と合わせると 16 人で 27.6%となりました。

【学校関係者】院内学級教諭 7 人と特別支援学校教諭 3 人、その他の学校関係者 7 人の 17 人で 29.3%でした。

⇒当事者、医療関係者、学校関係者のそれぞれが 25～29%の構成を占めました。

■DVD を視聴した第一印象をお聞かせください。

◆活動の意義について	人数	構成比
a 意義深いと感じた	54	93%
b あまり意義を感じない	0	0%
c 何とも言えない	3	5%

回答者 58 人中 54 人の人（93%）が活動を意義深いと評価しました。

この設問に関連したコメントは以下の通り。

- ・新しい試みで期待される。
- ・人とふれ合い、自分に共感してもらったりすることはすごく意義がある。
- ・つながりは心を温かくし、励ましあえる。
- ・入院中、退院後学校へ行くことのできない児童、生徒にとって有意義なものだと思う。
- ・遠隔画像的な学習支援よりも対面人的な学習支援の方がよい
- ・自宅を出られない子供たちにとって、web で学習等ができるのはすばらしい。
- ・他者とのかわりを少しでも持てることは学習のみならず、様々な面でメリットのあることだと思われる。
- ・子どもの性格、レベル、興味、体調などと教える側のマッチングがむずかしい。
- ・画面（映像）があるのでパソコン上ではあるが感情気持ちが伝えあえる
- ・自宅に居ながら同じ状況におかれた生徒同士の交流をはかれるという事は孤立化を防ぎ生きる勇気につながると感じる。

学習だけでなく、多くの仲間と交流できる点が評価されています。

◆生徒に利用を薦めることについて		人数	構成比
a	ぜひ利用を薦めたい	14	26%
b	機会があれば利用を薦めたい	31	58%
c	詳細な内容を吟味したい	6	11%
d	薦めるには抵抗がある	0	0%

「ぜひ利用を薦めたい」あるいは「機会があれば利用を薦めたい」と答えた人が45人で77.6%に達しました。

(記載されたコメント)

- ・病気がハンディとならないことを、親にも伝え、理解を広げる必要を感じます。
- ・もし、勧める機会があればということになるのですが、bより積極的なのでaにしました。
- ・ネットの環境が整っていて、保護者がサポートできる状況ならすすめたい。
- ・以前当院内学級ではテレビ電話やポリコム電話会議等を使用していたが人対人に切り変えた。
- ・小学校を担当しているため、小学校で考えてみました。高学年であれば良いかなと感じます。中、高校生ならもっと良いと思います。
- ・生徒の状況を見て有効だと思われるケースについて薦めたい。
- ・小5の男の子ですがまだ同じ体験をした人と話したいという考えがないようです。親はいずれ参加したらよいと考えています。
- ・自宅にいながら親の手をはなれた小さな社会に参加できる。

小学生よりも中高生の方が適性が高いという意見が聞かれています。

■どのような生徒が利用できれば意味があると感じましたか？

◆入院中の患児・者で院内学級を利用できない生徒			
a	大きな意味がある	50	88%
b	いくらかの意味はある	6	11%
c	あまり意味を感じない	1	2%

大きな意味があると答えた人が 50 人、88%を占めた。以下 6 つの状況の中で**最も高い評価**となりました。

(記載されたコメント)

- ・院内学級を受けるには、転校の必要があり、また、富山県の場合県内に一校しかないため、物理的に通えない生徒が多く、そのような生徒にとって魅力的であるとする。
- ・とても意味があると思う。インターネット接続の面で課題がある。
- ・学習したり人と話すことは、人を成長させるし、生活に意味や、目当てができる。強い助けとなるだろう。
- ・たとえば、退学をしなくてはならなかった高校生などにも。また、特にホームルームはベッドの上で参加できるのがとてもいいと思いました。
- ・入院中の子は、克服した仲間がいる。(特にホームルームで) 身近に感じることで、とても意義があると思います。
- ・高校生は院内学級もないので、週に 1・2 回でもこのような機会があるのは嬉しいのではないか。
- ・中学 3 年生で受験を目指している生徒にはありがたい気がする。
- ・入院中、病棟内でネット利用できる環境が本人にはない。公衆回線利用も不可になっている入院中の小児がん患者で院内学級を利用しない生徒は本院ではない。
- ・ベッドサイド訪問をしている。職員がベッドサイドに行くことのできない子は学習する体調の整わない子である
- ・同じ学年の子どもがいろいろいると、web で通じ交流ができる。
- ・短期の入退院をくり返す児童生徒は院内学級にも入らず学校へも行けず家庭で過ごす場合が多い。そのような患児はよいと思われる。
- ・勉強の遅れをとりもどすことができるため
- ・勉強より友達とのコミュニティとなる
- ・院内学級の先生に指導してもらうには通学していた中学から支援学校に籍を移さなければならぬが e クラスなら誰でも在籍できるのが良い
- ・外部とのアクセスができる。良いことです。

この設問に関しては非常にコメントが多く、院内学級(小中)のない病院、入院中の高校生、院内学級を利用するため特別支援学校への転籍を避けたい人などは、院内学級を利用できないため「意味がある」と評価されました。

◆退院直後で復学準備をしている生徒		人数	構成比
a	大きな意味がある	42	72%
b	いくらかの意味はある	15	26%
c	あまり意味を感じない	1	2%

(記載されたコメント)

- ・復学先の学校の進捗等を考慮した学習的準備が必要である。また、復学してみないとわからないことも多いので、復学先との連絡があるとより良いと考える。
- ・原籍校の仲間とコミュニケーションがとれるなら大きな意味がある。
- ・明日への意欲化となる。
- ・経験者としての「先輩」の姿、お話はすごく力になるのではないのでしょうか。
- ・復学を経験している先輩からアドバイスをもらえたりして、不安が小さくできることも考えられる。
- ・自宅療養期間が1ヶ月以上の児童生徒は少なくないので、その間の学習補償となる。
- ・長野県では自宅に支援員を派遣し、直接学習支援をしている
- ・自宅だけにとどまってしまう中では、意味がある。
- ・復学の準備期間により意味の差は変わっていくのではないかと考えられる。
- ・復学を前にして不安を抱えた生徒を支えるため
- ・引退後の一年間は自宅で学習してどこにも属していなかったなのでこの期間にネットでeクラスがあれば良かったのに…
- ・症状の程度による。

コミュニケーションという点では原籍校とつながることの意義が示唆されました。

自宅療養期間が長い生徒にとって意味があると評価されています。

◆復学したものの授業について行けない生徒			
a	大きな意味がある	43	75%
b	いくらかの意味はある	12	21%
c	あまり意味を感じない	2	4%

ネットでeクラスがもともと想定していた対象者の属性はこれでした。大きな意味があると答えた人は43人で75%を占めました。

(記載されたコメント)

- ・特に断続的な入院をしている生徒はところどころに記憶の抜けている部分があり、その部分の補填が重要である。
- ・Face to faceの方が理想的。
- ・分らない時は、直に声が聞けるから
- ・「授業についていけない」理由によると思います。
- ・大きな助けになると思う。また、精神的な支えにもなると思う。が、晩期障害からのものであれば、この学習の方法にしんどさを感じるかも知れない。
- ・心理的な不安のケアにはなると思うが、根本的な問題の解決にはならないと思う。
- ・<授業の内容がわからないので…>
- ・外部とのつながりは大切。
- ・授業についていけるようにするため
- ・学校の先生には聞けない、あるいは聞いても相手にされない場合も有るため。
- ・苦手と思いこんだ学習にもう一度やる気をおこさせてくれたので助かりました
- ・症状の程度による。

◆登校できる日数や時間が少ないか、限られている生徒			
a	大きな意味がある	47	81%
b	いくらかの意味はある	11	19%
c	あまり意味を感じない	0	0%

大きな意味があると答えた人は47人で81%を占めました。「入院中に院内学級が利用できない」状況に次いで高い評価となっています。

(記載されたコメント)

- ・社会・学校への窓口として
- ・退屈な時であったり、落ち込みそうな時、ぜひ利用するとよい。
- ・本来は、地域の学校が、そういう生徒に何らかの手助けをすべき（理想論ですが…）
- ・週1回は少ないと思うが、学習意欲があれば、助けになると思うが、パソコン向かうこと自体がしんどいかも知れない。
- ・自分の好きな時やペースに合わせて出来そう。
- ・登校できるようになっても、日数が少ない子は学校と併用できる。
- ・補習としての意味
- ・学校以外の場での就学保障
- ・在籍校とのカリキュラム合わせなどご苦労と思います。

◆晩期影響によって塾通いが困難な生徒			
a	大きな意味がある	43	75%
b	いくらかの意味はある	11	19%
c	あまり意味を感じない	1	2%

(記載されたコメント)

- ・社会・学校への窓口として
- ・そういう生徒にこそ、大きな意味を持つと思った。
- ・晩期障害によると思う。家庭教師のようにそばで見守る方が、よい場合もあるのではないか。
- ・進学等に不安感のある生徒にとって、学習の補完と心理的な安定の両方が期待できる。
- ・塾を補う意味で

◆就職(在宅就業を含む)に役立つ知識やITの技能を習得したい学生や未就労若年者

a	大きな意味がある	36	64%
b	いくらかの意味はある	18	32%
c	あまり意味を感じない	2	4%

(記載されたコメント)

- ・社会性を身につけることが IT では困難だと思う。(Face to Face)
- ・就労意欲はあるが、病弱・家から出られないなどの場合、そのような学習ができるのは嬉しいと思う。
- ・知識や技術を身につける媒体としての意義は大きい
- ・意味あるものと思うが現実的には課題が多いのではないかと思う。
- ・目的がはっきりしている
- ・将来の仕事に役立つスキルを身につけられる
- ・経験者が教えるという点では双方に意義があると思う。

◆その他、利用可能な局面について、思いついたアイデアやご意見がございましたらコメントをお願いします。

(記載されたコメント)

・無菌室にて病室から出られない場合にも利用できる。また、病弱児養護学校に通う生徒においても人数が少なく同病の子がいないと孤独感を持ったり、普通学校への進学を考える生徒の学習的不安を解消する、という利用も可能である。

・難しいですね。

・趣味について用いる。いわばクラブ活動としての利用。

・どのような状況であっても利用者が楽しく前向きに利用できるのであれば意味はあると思いました。

・年代別とか、利用目的別とかがあれば内容がそれぞれの年代にあったようにできるかなと思いました。ホームルームは一緒に意義があると思う。

・就労を目指すような技能・知識を習得させるのであれば、完全無料ではなく、一部有料にすれば、より専門的なことを教えられる先生を長期的に招くことも可能ではないでしょうか？

・他人と交わるのが苦手な患児が、家で特定の講師と学習を進める事が出来るので、抑うつ症状が比較的強い時にも有効と思える。

・復学につまずいてしまうと、あらゆる事に臆病になり、普通に出来ていた事、塾へ通うことや新しい環境に馴染みにくくなりました。社会へ少しずつ参加する為にも、自分を自由に表現し、理解してくださる方々がいらっしゃる場をご提供頂けるのは、大変ありがたいと思います。

・1時間パソコンに向かって集中して学習するというのは、元気な子には何でもないことかも知れませんが、病気の子や学習が苦手な子にとっては苦痛です。短時間の集中→休憩→短時間の集中→休憩→短時間の集中なんてことがパソコンの個別学習で可能でしょうか？

・晩期障害で知的を伴った場合、多くは支援学級や支援学校に進む場合もあると思います。義務教育内(中3まで)では、おおよそ小学4~6年生レベルの国、数、英、それ以降支援学校では作業中心も多く、狭い範囲での教育(学科)しか受けられません。働くためには、最低限の教育で良いのかも知れませんが、親として、**社会(地理や歴史)、理科(実験など)なども人生の豊かさとして、触れてほしかったと思う**ので、知的があってもその辺の教科が受けられる機会があるとうれしいです。

・院内学級でも十分な授業時間をとれないことがなく、併用できれば更に良いのではないのでしょうか？

・小児がだけでなく、精神科の疾患にも有効なのではないのでしょうか？

病院内で長期療養中の患児と患児の通っていた在籍校のホームルーム時間などをつなげることが出来たら良いですね

・東京、関東にも集いがあると行きやすく励みになると思います。

小学生とか幼稚園児(もちろん親がですが)も支援があれば良いと思います。親のメンタル面も大分楽になると思います。

・より良いものにするため、がんばって下さい

- 一般の学校の教室と自宅がつながっていくシステムもあれば良いと思いました。
- がんの子供たちだけでなく様々な治療、障害をもつ子供たちにも対応できるシステムだと思いました。

「無菌室での利用」、「就労の目的」、「社会・理科の補完」という観点は興味深い。

■ホームルームについてお聞かせください。

◆ホームルームについて興味深いと感じられた点など。

- ・年齢の異なる、いろいろな地域に住む生徒が一度に顔を合わせて交流するというのは、面白く、定時制高校の雰囲気があると感じた。自宅や病室に居ると毎日に変化がなく、孤独感が深まりやすいので、HRの存在は有意義であると思う。
- ・病気を経験した子どもたちの**疎外感を感じる時その軽減に役立つ**と思う。
- ・相互のコミュニケーションを顔の表情を見ながらできる点。離島などで経験者の仲間がいないときに有用。
- ・お互いを知ることができるので非常に良い取り組みだと思えます。
- ・いろんな世代と話ができること
- ・人との交流は、孤独感や絶望感を減らすし、心に楽しい一時ができて、とても良い。仲間がいるという意識は、すごく人間には大切。
- ・身近にいないけど、もし、聞かれたら紹介できる。この様な活動をしていることを初めて知った。
- ・直に話し合うことが心を高められる。
- ・すごく楽しそうにしているのと、年齢の違う人同士での会話がすごくいい経験になると思いました。
- ・目上の人と話す、他の世界との人とかかわりを持ち、見聞が広がる。狭くなりがちな自分の世界から少し引っ張って外へ出してもらえそう。自分の居場所がある。病気以外のことで話せる大人がいる。目標を持つことができる。
- ・インターネット活用の時代に合った方法だと思えます。
- ・家にいながら、同じ病気を抱えた仲間とリアルタイムでつながる事が出来る。
- ・同じ苦しみを乗り越えてきた者同士、何気ない会話からも力をもらえると思いました。”ひとりじゃない”と、感じることで、前向きに考えられるきっかけになると思いました。”つながる”と、いうことに大きな意義を感じます。
- ・親でも、同じ経験をしたものどうしの交流は、心通い合う安心した楽しい一時ですので、子供達も同じだと思えます。
- ・ホームルームがあることがよい。
- ・仲間がいるということが大切だと思えます。
- ・小児がん経験者が出会う場というのは、ほとんど無いので、仲間として集えることは、大変良いことだと思う。つながりが広がり深まっていくといいと思う。
- ・同じ疾患を抱える友達と話が出来ること。
- ・子どもの中に居場所があることは、とても大切だと思えます。
- ・同じような苦しい治療を受けた仲間という共通点があるので安心して話せると思う。
- ・年齢や学力も様々なメンバーなのですが、仲間としてまとまっていると感じた。
- ・**教室にいるような感じがして良い。**
- ・顔を見ながら話せると安心感があるだろう

- ・自宅で一人だと閉そく感がでてしまうが、こうして web で多くの仲間と交流ができると仲間の1人としての安心感等が持てると思う。
- ・同じような疾患同志で気持ちをうちあけあう機会になる。社会復帰に向けた社会参加の準備
- ・同じ病気や、同じように入院し同じ境遇にいる子どもたちが顔を見て話をできるのが、とても良いと思う。
- ・ネットの方が自分の気持ちを出せる感じがする
- ・1人でこの病と闘うには重たすぎると思います。同じ苦しみを抱える仲間の存在は不可欠でありホームルームは仲間が集える場を提供するうえで、とても大事なことだと思いました。
- ・中・高生向けなんだとわかりました。小学生にはホームルームはむずかしそうですね。それでも友達ができる喜びがあじわえそうです。
- ・色々な地域の人とも簡単にコミュニケーションが取れる点。
- ・“笑い声” がはっきりなしに聞こえてくるのできつととても楽しいホームルームの時間なんだと思います。
- ・みんなの心の拠り所となっていると感じました。理解してもらえる仲間うちに逃げ込みやすいとの批判もあるようですが、まずは逃げ込める場があるということが大事だと思います。
- ・同じ経験をした仲間とコミュニティがとれる点
- ・参加者の表情がとても良かった。

回答者 58 人のうち 42 人が上記のようなコメントを記載してくれました。これは構成比では実に 72.4%に達しています。

ほぼ 100%のコメントが肯定的であると思われ、期待の高さを感じ取れました。

◆どんな視点や要素を盛り込めばさらに改良できるでしょうか？

- ・人数が増えた場合の HR の開き方が気になった。
- ・ピアサポートという意味で子どもたち自身が？しやすい雰囲気大切と思います。
- ・生徒達のみずからホームルームを進めていけるようになれば、より活発なホームルームになると思います。クラス委員長を決めるのもひとつのきっかけになるかもしれません。
- ・趣味やゲームとか、病気に全く関係ない部分もあるといいかな。(オンラインであるような、みんなが参加してやれるようなパソコン系のゲーム)。
- ・疎外感や孤独感を持った経験者(サバイバー)が、「逃げ込む」ところではなく、「ここで力をもらって、外に出て行けるように」なればすごく素敵ですね。
- ・フェイスブックなど、ほかのコミュニケーション方法とのつながり
- ・性格や年齢によってクラスを分ける。
- ・日直(司会)もあるとよい。
- ・親同士が話す場とすることは可能でしょうか？(関わった患者さんのご家族から”同じ立場の人と話す場が欲しいと”言われたことがあったので)。
- ・ホームルーム(9人の画面)以外にも、2人(1対1)、3人の少人数で(個別学習のような)おしゃべりできるようになるといいなと思います。
- ・このような治療経験のない？健康者(児)に自分たちの思いをどのようにして理解してもらえるか、などでしょうか？
- ・ホームルームでは、学習の部分を減らして、仲間と交流する、あるいは、学校の勉強とは違うものを学ぶことに重点をおく。(もう既に出来ていると思います)。
- ・頻度やもう少し多いほうが良いのでは？
- ・現実の学校で疎外感を味わった児童・生徒に対し、それに立ち向かっていくような指導ができるとうい。
- ・小学校の子供向けに高次脳機能障害のリハビリ(ゲーム)があると楽しそうです。普通クラスにいてもグレーゾーンの子供が多いはずなので知能リハビリのクラスのユーズはあるはずです。
- ・年齢別のクラス紹介。
- ・学年でも十分交流できているようですが、思春期特有の悩みなど今後同年代の集いもできるような広がれば良いと思います。
- ・何か話し合いたい議論を決め、病気の子もそうでない子も自由に議論ができるような場があると興味深いと思います。
- ・夢や目標を話しあえる場になると素敵だと思いました。

◆自由意見

- ・個別学習はインターネットより直接指導した方が人間同士のコミュニケーションという意味では良いのではないだろうか？コンピューターやインターネットを介することで人間同士の関係が希薄になるような気がする。
- ・よくわかりませんが、人数や年齢で難しいだろうなと思いました。でも居場所がある事、人と話すこと、楽しむことは回復にとっても大切なことだと思います。意義ある活動だと思います。
- ・Webカメラを使用したくない患児が、音声のみで参加する事は可能でしょうか。
- ・個人的には、時間帯と、午前等にいただければより参加しやすいかと思います。
- ・親の負担が軽減され、ありがたいシステムです。
- ・DVDは、中学・高校生（大学生も）の集まりだったが、今後、小学生も参加という幅を広げていくなれば、小学生は小学生の仲間に分けないと話についていけないかなと感じた。
- ・以前、テレビ会議システムを利用した遠隔授業の実践研究に参加したことがあり、そのとき成果がありましたので、この方法は意義があると考えます。
- ・我が子の場合、話題についていけなかったり、理解できなかったりがあったので、Kくんとまずはお話するなど、1対1からスモールステップできると良いなと思いました。
- ・逆に仲間意識が強すぎて、仲間に対してのみ、意思の疎通ができることは望ましくないなので、仲間の中でエネルギーを蓄えて日常生活でもちゃんと自分の意思が言えるようになってほしい。
- ・基本的に今のままでいいと思います。人数が増えたときに1クラスの人数とメンバーをどうするかも大切と考えます。
- ・御発展をお祈りします。大変ご苦労様です。
- ・「安心して話せる仲間がいる」ことももちろん大事だが、内輪だけの関係にならないように。
- ・学校に復帰して通常の生活にもどることができたら、外に目を向けるようにすすめていくと良いと思います。ネット上のWebホームルームは、生活上、規制がある間の利用と考えたほうが良いのかなと思います。（退院後）通院頻度が少なくなるにつれ、子ども達は、自然に「病気」から離れていくようです。
- ・Webホームルームからいずれははなれて学校や近所の友達とのきずなを深めていくことを目指すという視点も必要だと思います。
- ・余談ですが、画像の鮮明さに驚きました。
- ・月2回の画面を通じた交流で、しかも体調や治療に左右されるのがむずかしい。
- ・webホームルームに関係はないのですが在籍校との連携はどのようになっているのかなと思いました。自分の経験より在籍校の担任とのコーディネーターなどもやっていただけるといいなと思いました。
- ・自分の娘（小5）に参加させてみようと考えています。ただ、本人がはずかしがっていること。全国大会に参加できないので身近に感じにくいのでは？と思っています。（ホームルームについて）個別指導には興味があります。Web+実体験（face to face）が理想です。保護者会のような親のeクラスがあってもよいかもしれません。

- ・ホームルームの司会さんが楽しい雰囲気づくりをつくりだしていると思いました。
- ・教育の行き届かない状況があるということを知る機会ともなりました。この活動が国の教育を見通すきっかけとなり、多くの不安を抱える子供たちや家族を救えるようになるといいと思います。
- ・社会的なサポートが少ない状況に置かれている対象者に手をさしのべるこのような活動は大変意義深いと感じます。同じ体験をした仲間の輪があるという事はその個人の生涯を通しての支えになるのではないかと思うので仲間作りの場としての支援も可能であれば年に2回 web の他に実際に交流できる〈場〉の提供ができればより充実した活動になって行くと思います。

■ホームルームで他にも考えられるプログラムについて

- ・自由研究&自由発表。生徒それぞれの興味の題材について発表&意見を言い合っても面白い。
- ・ストレスからのセルフコントロール（呼吸法、イスのまま、できるヨガみたいなもの、リラクゼーション笑うヨガ）
- ・健康教育の時間
- ・おもしろ英語
- ・ブックレビュー。
- ・芸術系（美術、音楽分野）
- ・サイコオンコロジーコーナー。瞑想や自律訓練法の簡単な実践。社会人サバイバーからのメッセージ。
- ・元々、英会話の学習に向いているので、ネイティブスピーカーとの語学学習に多く利用すると良いと思います。子供だけの交流は難しいのでしょうか。年齢的には良いと思います。
- ・「こんな花が咲いていたよ」というような歳時記など、どうでしょう？
- ・参加している子ども達の希望は？（みんなが顔をあわせて何がしたいのか）。
- ・生徒一人一人が、”自分の興味のある事や得意な事を皆にプレゼンする。” というのはどうでしょう？（要は〇分、その子に与えられる自由な時間、どう使ってもOKとする、というものです）。→思いつきで書いてみました。お役に立てば幸いです。
- ・本当に頭が下がる程、よく考えられていると思います。
- ・Q4に関連したトピック。
- ・最近の悩み（1人の生徒の悩み相談に対してみんなで考える）。
- ・自分たちの病気に関する学習。
- ・ホームルームに参加する人が増えてきた時にホームルームのバリエーションが広がるのもおもしろいかもしれませんね。たとえば女子限定のガールズトークホームルーム、10代限定のティーンズホームルーム、子供向けのキッズホームルームなど
- ・すばらしいシステムだと思います。サバイバーの就労支援にもなりますね！！未来を作っていきたいです。
- ・離れている者同士で話しができる。
- ・患者、元患者たちだけの雑談コーナー
- ・「目標」を作るプログラム。目標となれば何でも良い。年令に応じたプログラム